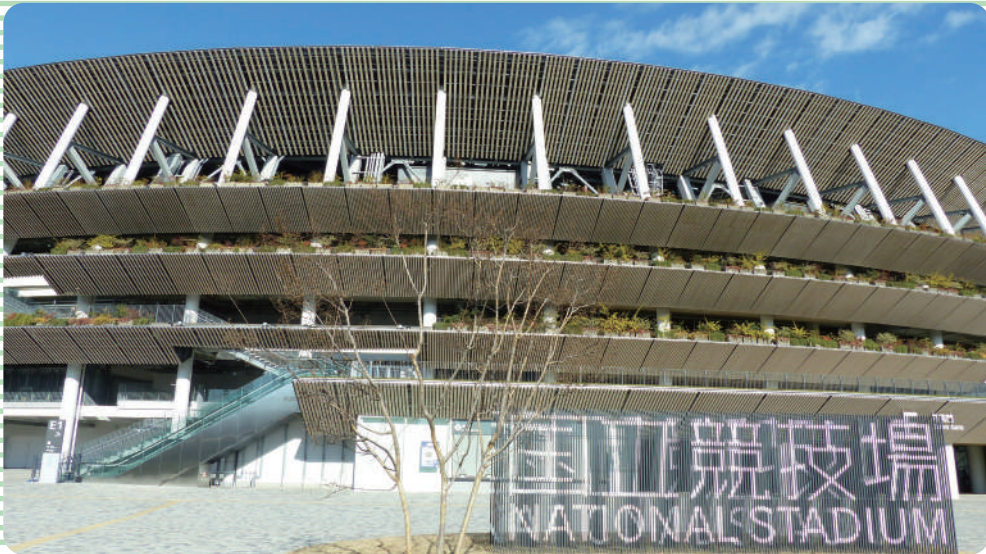


五輪・パラリンピック対策特別委員会特集号

パラリンピックメダリストを囲んでの研究会



大会期間中に近代五種公式練習会場を視察

成して参加しました。

今年3月の本委員会設置当初からの活動を総括し、動画を作成して参加しました。

本委員会では、渋谷区内で実施される競技やパラスポーツなどについて、継続して調査を重ねてきました。

大会期間中には、渋谷区スポーツセンターにて近代五種(馬術を除く)の公式練習会場の様子を視察、本年3月には恒久施設となる海の森水上競技場を視察し、大会レガシーへの理解を深めました。

また、令和3年12月には、東京パラリンピックトライアスロン銅メダリスト米岡聡(よねおか・さとる)選手と、同じくトライアスロンガイド銅メダリスト椿浩平(つばきこうへい)選手を講師に迎えて研究会を開催し、「共助の銅メダル」壁を乗り越える力」をテーマに、銅メダルを獲得した過程や東京2020大会後の目標を伺いました。

気運醸成事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けました。同年11月の渋谷区くみんの広場は前年に引き続きオンライン開催となったため、平成26年3月の本委員会設置当初からの活動を総括し、動画を作成して参加しました。

五輪・パラリンピック対策特別委員会は、第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会に関連する諸問題の解決と気運の醸成を図るため、また、新型コロナウイルス感染再拡大を乗り越えて競技大会が開催できるよう、調査並びに対策に取り組んできました。

そのほか、区民観戦事業に

おもてなしスポットについては当初、渋谷区役所・渋谷駅の東急東横店・千駄ヶ谷社会教育館の3か所の予定でしたが、大会延期、東京都からの施設使用要請、新型コロナウイルス感染再拡大に伴う人流抑制といった理由から、最終的には渋谷区役所1か所となりました。報告を受けて、限られた状況の下でも、展示等に来場者を誘導できる工夫をするよう求めました。

学校連携観戦については、パラリンピック大会にて実現しました。希望する児童生徒の参加となりましたが、パラリンピアン活躍を直接目にしたことは感動とともに共生社会の理解を促進するものであり、これまでの学びと合わせてレガシーとして記録に残すよう要望しました。

渋谷区の独自ボランティアについては、新型コロナウイルス感染拡大により活動が制限されましたが、その志はレガシーそのものであり、今後ボランティア登録制度を維持し、渋谷区のレガシー事業の活用につなげていくよう強く求めました。

令和3年5月から令和4年3月までの委員会活動経過

東京2020大会開催状況の推移について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大会開催状況が随時変更されたため、その都度報告を受けました。

オリンピック・パラリンピックレガシーについては、

オリンピック・パラリンピック大会から得られたものをい

令和3年12月、新たに建て

おいて、宮下公園でのコミュニケーションサイトについて

も人流抑制のためやむなく中止、シティドレッシング、文化プログラムについては縮小変更をして実施したと報告を受けました。

オリンピック・パラリンピックレガシーについては

オリンピック・パラリンピック大会から得られたものをい



平成26年3月の委員会設置から現在までの委員会活動経過

国立競技場整備事業と周辺まちづくりについて

迷走した国立競技場整備事業については、現地調査をはじめ建築計画の調査を重ね、地域の要望実現に向けて各関係機関等に働きかけました。平成26年4月、新国立競技場建築計画の概要について、独立行政法人日本スポーツ振興センターの国立競技場設置本部長を迎えて説明会を開催し、同年5月には廃止された旧国立競技場及びその周辺を現地調査しました。

同年6月、国立競技場近隣町会及び商店会の代表者と懇談会を行い、いただいた御意見等を取りまとめ、同年7月には、「新国立競技場建設に係る要望等について」を新国立競技場設置本部長へ提出しました。平成28年2月、新国立競技

▽国立競技場近隣町会及び商店会代表との懇談会



▽旧国立競技場視察(平成26年)



▽新国立競技場建設予定地視察(平成28年)



▽新国立競技場視察(令和3年)



▽新国立競技場設置本部長へ住民要望を提出



場建設予定地を視察し、同年4月には、新国立競技場設置本部の担当者を迎えて懇談会を開催し、新しいデザインとなった整備計画の概要や進捗状況を調査しました。同年12月、千駄ヶ谷まちづくり協議会との懇談会を開催して御意見などを伺い、平成29年6月には、規模に対し極度に少ない駐輪場計画を見直すよう、「新国立競技場建設計画における駐輪場・駐輪台数の増加を求める意見書」を国に提出しました。平成30年10月には、スポーツ庁と新国立競技場設置本部の担当者との懇談会で、イベント時には臨時に駐輪場を確保するという解決策の説明を受けました。同年8月には、新国立競技場付近の視察時に本番さながらの暑さを体感し、酷暑対策を講じるよう要望しました。大会終了後の令和3年12月、新たに建て替えられた国立競技場の観客席や外構、フィールド内の視察を行いました。

研究会の開催について

平成27年から令和3年の間に、大会の理解と気運醸成のため、計6回研究会を開催しました。

そのうち、平成27年11月には、リオ・東京パラリンピック車いすラグビー銅メダリストの池崎大輔(いけざき・だいすけ)選手を講師に迎えて、「人生の1ページ〜挑戦〜」をテーマに、リオデジャネイ

▽高田千明選手・裕士選手の講演を聞く議員



△講演をする池崎大輔選手

ロ・パラリンピックでの経験や東京2020大会への思いなどをお聞きました。また、令和2年7月には、東京パラリンピック走り幅跳び5位入賞の高田千明(たかだ・ちあき)選手と、デフリンピック400mハードルほか日本代表の高田裕士(たかだ・ゆうじ)選手を講師に迎えて、「モチベーションの保ち方」というテーマで、大会延期は練習時間の増加と捉えているほか、パラスポーツをぜひ会場で観てもらいたいというお話を伺いました。

リオデジャネイロ・パラリンピックとロンドン大会レガシーの視察について

平成26年9月、リオデジャネイロ・パラリンピックの運営状況とロンドン大会のレガシーを調査するため、渋谷区議会は視察団を派遣しました。リオデジャネイロはロンドンと比較して、市内のバリアフリー整備が十分とは言えず、各競技会場にも仮設の印象を強く持ちましたが、積極的なボランティアの活動や渋谷区内実施予定のパラ競技の試合状況など、現地ならではの視察を行うことができました。

帰国後、視察の成果として、議会・行政への提言をまとめました。パラリンピックの気運醸成に向けて、区立小中学校へのアスリート派遣や、街から雰囲気盛り上げるシテイドレッシング実施のほか、ボランティアの育成やガイドスポット設置、レガシーとしての渋谷区の未来像(ビジョン)の作成などを挙げました。



△各競技の様子

▷リオ市内で道案内等に携わるボランティア

渋谷区くみんの広場への参加について

平成26年の委員会設置以来、東京2020大会の気運醸成を図るため、当委員会は渋谷区くみんの広場に毎年参加してきました。区内で実施された計5種目のオリンピック・パラリンピック競技に関するクイズや、

本委員会は、大会開催を機に渋谷区が一層の発展を遂げていくよう、付託された事件の調査並びに対策について、鋭意取り組んでまいりました。今後も、区議会として大会レガシーを区とともに継承・充実させていきます。

▽第42回渋谷区くみんの広場(令和元年)



△第41回渋谷区くみんの広場(平成30年)

区内実施競技の調査、研究とレガシーの継承について

パラスポーツについては特に調査、研究を行い、車いすラグビーについては数度にわたり視察や体験を重ね、競技への理解を深めました。また、選手や関係者との懇談にて練習会場確保の苦労などを伺い、車いすラグビーとパラバドミントンの練習会場として、渋谷区スポーツセンターの利用を区に要望、実現しました。令和2年10月には「日本オリンピックミュージアム」にて聖火ランタンに灯された東京2020大会の聖火や、オリンピック・パラリンピックの歴史や理念に係る展示を視察しました。

▽日本オリンピックミュージアム視察



△車いすラグビー日本代表合宿視察(平成30年2月15日 渋谷区スポーツセンター)

五輪・パラリンピック対策特別委員会委員 令和4年3月1日現在

Table with 2 columns of committee members' names.

(◎委員長/○副委員長)

歴代の五輪・パラリンピック対策特別委員会委員(五十音順)

Table with 3 columns of past committee members' names.

(※故人/◇在職中議員)